

# 令和7年度宮崎県外部評価資料

## 外部評価対象プロジェクト名

### プロジェクト1

持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレイヤーの確保・育成（対象期間：R3～R7）

### プロジェクト2

にしもろの畑地を活かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立（対象期間：R3～R7）

令和7年10月15日

西諸県農業改良普及センター

# 目次

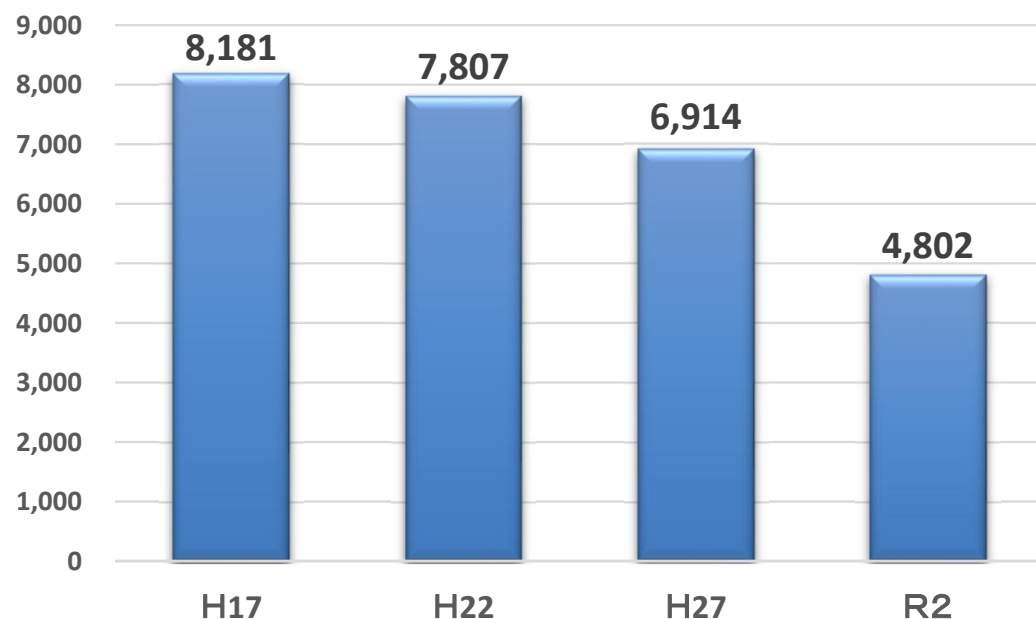
---

I	地域農業の概要	..... P1
II	西諸県農業改良普及センター組織図	..... P2
III	プロジェクト一覧	..... P3
IV	プロジェクト設定の手順	..... P5
V	プロジェクト1	..... P6
	① 普及計画の概要	
	② 主な取組と現在の状況	
	③ プロジェクト全体の到達目標の達成状況	
	④ 今後の課題と対応方向	
VI	プロジェクト2	..... P15
	① 普及計画の概要	
	② 主な取組と現在の状況	
	③ プロジェクト全体の到達目標の達成状況	
	④ 今後の課題と対応方向	

# I 地域農業の概要

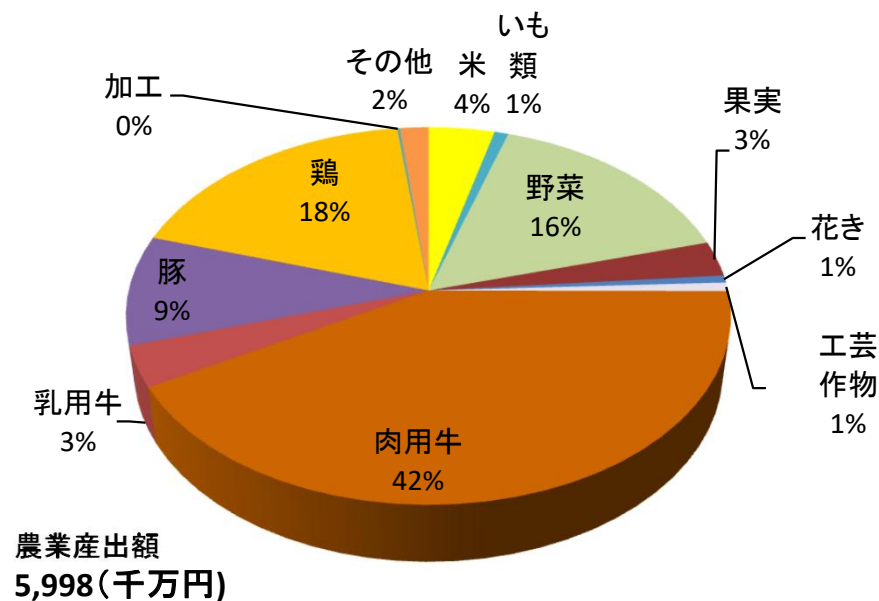
- 県の南西部に位置し、北は九州山地を挟んで熊本県、西は霧島連山を挟んで鹿児島県と接しており中山間地域も多い。
- 管内の令和2年の基幹的農業従事者数は**4,802人**で平成27年に比べ**2,112人**減少した。また、平均年齢は、平成27年に比べ**1.1歳**上昇して**67.9歳**と高齢化が進んでいる。
- 担い手の中心となる認定農業者数は、令和2年3月末では1,216経営体であったが、**令和7年3月末**現在では**1,125経営体**となっており、**減少傾向**である。
- 当地域の令和5年度の耕地面積は、畑地の割合が**約55%**を占め、**県全体割合(46%)と比較して高い**。
- 令和5年の農業産出額は**約600億円**で内訳は**耕種部門166億円**、**畜産部門は433億円**で全体の**72.2%**を占める。
- 令和6年までの過去5年間の新規就農者数は、親元就農が**58名**、新規参入が**17名**、法人就農が**39名**となっている。

管内の基幹的農業従事者数の推移(人)



資料:農林業センサス

管内の農業産出額(R5年)



資料:農林水産省令和5年  
市町村別農業産出額(推計)

## Ⅱ 西諸県農業改良普及センター組織図

西諸県農林振興局長

独立庁舎

農業普及担当次長  
兼 普及センター所長

○普及センター  
職員数 21名  
(庶務1名含む)

○特徴  
・全体の年齢構成はバ  
ランスがよいが、担当別  
に見ると偏りある。

○地域支援課 課長  
・地域企画担当 3名  
・地域振興担当 4名

○農業経営課 課長  
・土地利用営農担当 3名  
(+会計年度職員2名)  
・農畜産経営担当 4名  
・園芸経営担当 4名

### Ⅲ プロジェクト一覧(R3～R7)

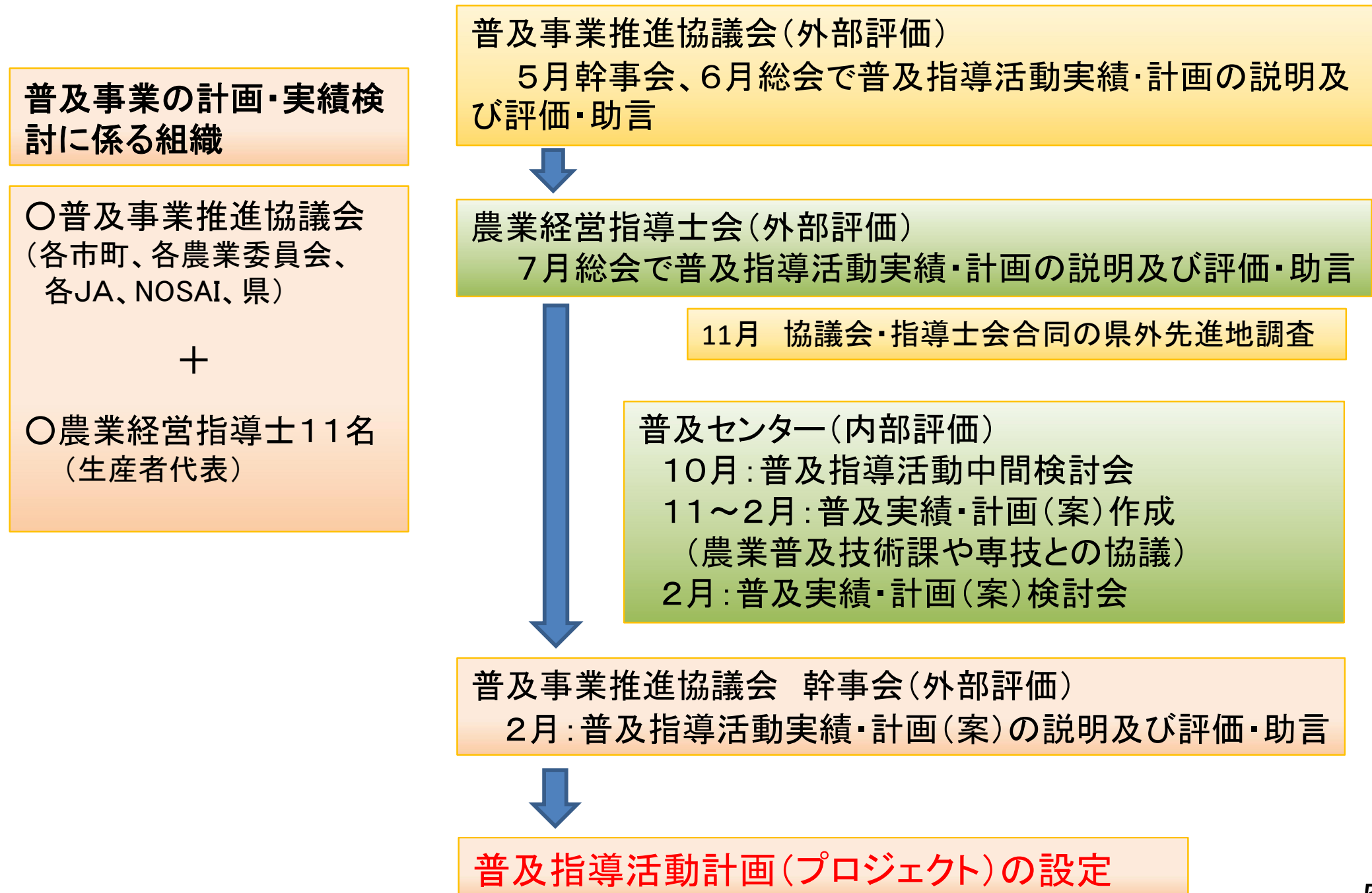
	プロジェクト名		主な活動内容	主担当
1	“農の魅力 を産み出す” 人材の育成 と支援体制 の強化	(総1)持続可能な農業生産 の実現に向けたアグリプレ イヤーの確保・育成	・就農相談から就農定着まで一貫した新規就農 者の確保・育成 ・SAP会員の組織活動支援 ・認定農業者等多様な担い手の経営発展支援	地域振興 地域企画
2		(専1)魅力的な子牛産地を 支える実力ある肉用牛繁殖 経営の確立	・肉用牛繁殖経営の向上支援 ・新規就農者受入れ体制整備と早期定着支援	農畜産経 営
3		(専2)スマート生産基盤の確 立による収益性の高い果菜 類産地の育成	・施設果菜類の生産性向上に向けた取組支援 ・新規就農者受入れ体制整備と早期定着支援	園芸経営
4		(専3)魅力ある西諸果樹産 地の維持・発展	・果樹の生産性向上による経営力強化支援 ・新規就農者受入れ体制整備と早期定着支援	園芸経営
5		(専5)20年後も生き残る西諸 茶産地の再編	・茶の効率化、共同化による産地支援 ・茶経営の発展支援	土地利用 営農
6	“農の魅力 を届ける”み やざきアグリ フューチェーン の実現	(総2)未来に繋ぐ”持続的な 次世代型水田農業“の実現	・スマート農業を活用した水田営農技術の確立 支援 ・水田の高度利用(水田フル活用)と収益性の高 い水田営農支援	地域企画 土地利用 営農 農畜産経 営

### Ⅲ プロジェクト一覧(R3～R7)

	プロジェクト名		主な活動内容	主担当
7	“農の魅力を届ける”みやざきアグリフードチェーンの実現	(総3)にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用や再産地の確立	・加工業務用野菜の安定・計画的出荷支援 ・さといも、甘藷の種苗供給体制支援 ・法人連携及び畑かん利用による経営の安定化支援	土地利用 営農 地域振興
8		(専4)西諸県地域の特色を活かした花き産地振興	・キク、ラナンキュラス、キイチゴの生産性向上に向けた取組を支援	園芸経営
9		(専1) 再掲	再掲	
10		(専2) 再掲	再掲	
11		(専3) 再掲	再掲	
12		(専5)再掲	再掲	
13		(総2)再掲	再掲	
14	“農の魅力を支える”力強い農業・農村の実現			

\* (総):総合プロジェクト (専):専門プロジェクト

## Ⅳ プロジェクト設定の手順



# V プロジェクト1

持続可能な農業生産の実現へ向けた  
アグリプレイヤーの確保・育成

(対象期間: R3～R7)



# V-① 普及計画の概要

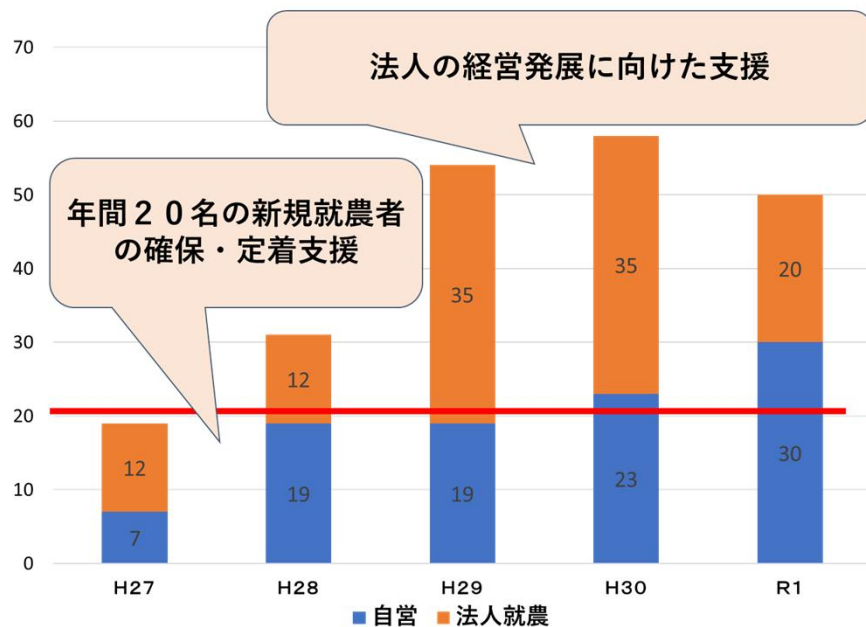
## 【現状と課題(R3)】

- 農家の高齢化等による農業生産の担い手の減少によって、地域農業の衰退が懸念される。
- JAの各生産部会等の生産者組織において、担い手となる農家数の推移や将来の産地維持・発展に何人の新規就農者の受け入れが必要かといったビジョンが明確にされていない。
- 新たな担い手確保を進めるための地域の受入体制が十分に整っていない。
- 新規就農者は農業知識や技術が不十分で、就農前に策定した計画の達成が難しいケースが多い。
- 農業法人等については、産地維持の地域リーダーとしての経営発展が望まれる。

## 【解決策】

- 新規就農者の確保に向けたJA各生産部会等における受入体制の整備
- 新規就農後の経営安定に向けた基礎技術・基礎知識修得のためのセミナー開催や生産現場での個別の技術支援
- 若手農業者であるにしろサップに対しての個人プロジェクト支援や組織運営支援
- 法人等に対する経営改善のためのセミナー開催や個別の経営改善提案支援

## 西諸県の新規就農者の状況（自営・法人就農別）



## めざすべき姿



持続可能な農業生産の実現へ向けたにしろアグリプレイヤーの確保・育成



# V－① 普及計画の概要

## 年度別計画



(○:連携先)

	普及課題	R3	R4	R5	R6	R7	市町村	JA	試験研究	民間
1	<b>新規就農者の確保(独立・自営、親元就農)</b> ・就農希望者のビジョンの明確化を行うための就農相談会等を開催 ・JAの各生産部会において受入体制へ向けた検討会を開催  【成果目標】 就農計画作成者数 10人/年(R2) → 累計50人(R7)						○	○		○
2	<b>早期経営安定に向けた新規就農者の就農定着</b> ・市町と連携した新規就農者の状況確認 ・基礎知識・技術修得のための農業者セミナーの実施 ・生産技術の個別巡回指導  【成果目標】 学修内容理解者率 70%(R2) → 74%(R4) 研修内容実践検討者率 - (R4) → 80%(R7)						○	○		

# V－① 普及計画の概要

## 年度別計画

(○:連携先)

	普及課題	R3	R4	R5	R6	R7	市町村	JA	試験研究	民間
3	<b>課題解決能力の向上</b> ・若手農業者集団にしろサップの 個人プロジェクト実践支援 ・ “ ” 自主企画のサポート支援  【成果目標】 個人プロジェクト実践者率 24%(R2) → 52%(R7)						○	○		
4	<b>法人をはじめとする多様な担い手の経営発展</b> ・経営管理の意識向上のための農業者セミナーの開催 ・経営改善に向けたモデル的経営体支援  【成果目標】 改善策の把握者数 － (R2) → 5件(R4) 経営課題の改善策の実践数 － (R4) → 8件(R7)						○	○		○

## V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：新規就農者の確保(独立・自営、親元就農)

### 1 重点対象集団

JAみやざきこぼやしマンゴー部会(約30戸)

### 2 主な取組

#### ■園地台帳の作成

全部会員に対し、事前アンケートを行った上で、ハウス・樹体情報、後継者の有無、今後の計画など30項目以上のヒアリングを実施し、園地台帳を整理

#### ■産地ビジョンの改訂

ヒアリングをベースとした担い手確保対策を含む令和10年度の部会の目標を定めた産地ビジョンを改訂

#### ■就農希望者のビジョンの明確化

マンゴーの新規就農希望者に対して関係機関による就農相談会を開催し、青年等就農計画の作成を支援。令和7年4月に1名が新規就農者に認定

### 3 成果及び成果目標の達成状況

新規就農者の募集開始部会数:0部会(R6)→1部会(R7実績)(R7目標:1部会)

部会員の農場を研修先とする新規就農者の受入体制が整い、令和7年度から新たに県内外の就農相談フェアにおいて研修生の募集が開始され、目標を達成

### 4 普及指導員だからできたこと

園地台帳の作成に際して、JA担当者とともに部会員全員へ直接ヒアリングを行ったことで、農家が自発的に担い手の確保や生産体制について考える契機となり、今回の取組につながった。



園地台帳作成へむけた全戸ヒアリング



県外就農フェア出展



# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：早期経営安定に向けた新規就農者の定着

### 1 重点対象集団

就農5年以下の認定新規就農者等(約80人)

### 2 主な取組

#### ■新規就農者向け農業者セミナー及び品目別講習会の開催

就農5年以内の新規就農者等に対して、基礎知識の習得や経営管理能力向上を図るアグリ★ベーシックセミナー及びアグリ★ステップアップセミナー、品目別(きゅうり、いちご、ぶどう、畜産)の講習会を開催

#### ■個別巡回指導の実施

JA等の関係機関と連携し、就農5年以下の新規就農者等に対して、生産技術向上を図るための個別巡回指導を実施

#### ■経営開始資金等受給者への個別面談等の助言

国の経営開始資金等を受給する認定新規就農者に対して、青年等就農計画達成へ向けた課題解決を図るための個別の面談や生産現場確認を実施

### 3 成果及び成果目標の達成状況

R3～R4 学修会内容理解者率 : 70%(R2)→99%(R4実績)(R4目標:74%)

R5～R6 研修内容実践検討者率: — (R4)→94%(R6実績)(R7目標:78%)

農業者セミナーの研修内容が十分に理解されたことが、高い実践検討率につながり、目標を達成できた。

### 4 普及指導員だからできたこと

研修内容や周知方法について、毎年度、内容をブラッシュアップすることができ、効果的な研修会が実施できた。  
JAとの連携等により、個々の習熟度や営農状況に応じて必要とされる生産技術について、きめ細かい指導ができた。



アグリ★ベーシックセミナー



新規就農者への個別巡回指導

## V-② 主な取組と現在の状況

### 普及課題：課題解決能力の向上

#### 1 重点対象集団

若手農業者集団にしもろサップ(27人)

#### 2 主な取組

■サップ会員が取り組む経営改善のためのプロジェクト策定支援

■にしもろサップ冬期大会をはじめとする、にしもろサップ活動の各種運営支援

#### 3 成果及び成果目標の達成状況

個人プロジェクト実践者率：24%(R2)→52%(R6実績)(R7目標:50%)

巡回等によるプロジェクト活動の個別指導や成果の発表の場である冬期大会開催を支援することで、プロジェクト実践者の増加を促し、目標を達成することができた。

#### 4 普及指導員だからできたこと

各プロジェクトを通じ、サップ会員と対話することで、個々の抱える潜在的な経営上の課題を明確にすることができた。



にしもろサップ冬期大会プロジェクト発表

### 普及課題：法人をはじめとする多様な担い手の経営発展

#### 1 重点対象集団

地域を担う管内認定農業者等

#### 2 主な取組

■認定農業者等を対象とした農業者セミナーの開催及び法人等への経営改善に向けた個別支援

#### 3 成果及び成果目標の達成状況

R3～R4 改善策の把握者数：5件(R2)→11件(R4実績)(R7目標:5件)

R5～R7 経営課題の改善策の実践数：－(R4)→8件(R6実績)(R7目標:8件)

経営段階に応じたセミナー開催や個別の経営体に対し改善策の提案を行い、実践を促すことで目標を達成できた。

#### 4 普及指導員だからできたこと

経営分析や目標設定等を各専門の普及指導員が個別に対応・検討することで、個々に必要な改善策の提案ができた。

## V-③ プロジェクト全体の到達目標の達成状況

普及課題1 : 新規就農者の確保(独立・自営、親元就農)

普及課題2 : 早期経営安定に向けた新規就農者の定着

普及課題3 : 課題解決能力の向上

普及課題4 : 法人をはじめとする多様な担い手の経営発展

### プロジェクト全体の到達目標の達成状況

- 新規就農者数  
R2(基準) 20人／年                      →      R6(実績) 10人 (R7目標: 20人／年)
- 認定新規就農者数  
R2(基準) 5人／年                        →      R6(実績) 4人／年 (R7目標: 5人／年)
- 法人数  
R1(基準) 149経営体                      →      R6(実績) 162経営体 (R7目標: 160経営体)

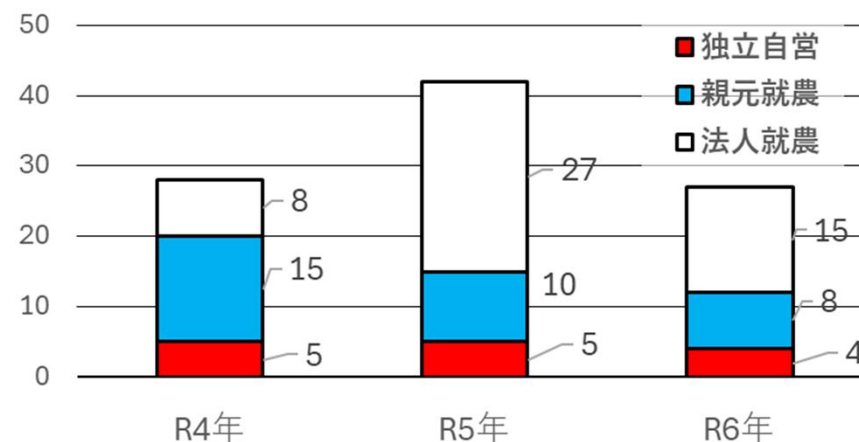
## V－④ 今後の課題と対応方向

### (今後の課題)

- 近年、独立・自営の経営や親元就農での就農希望者が減少し、担い手の確保が困難
- 認定新規就農者の多くは、依然として青年等就農計画の目標達成に苦慮

### (対応の方向)

- 関係機関と一体となったマンゴー部会の研修生募集の取組を推進  
マンゴー部会以外の生産部会等での担い手受入体制の検討・整備
- 新規就農者に対する経営・技術両面から経営課題の設定や改善対策を促す個別伴走支援の体制強化



新規就農者数の推移 (県調査結果)



マンゴー部会によるお試し就農



## VI プロジェクト2

にしもろの畑地を生かした  
収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立

(対象期間: R3～R7)

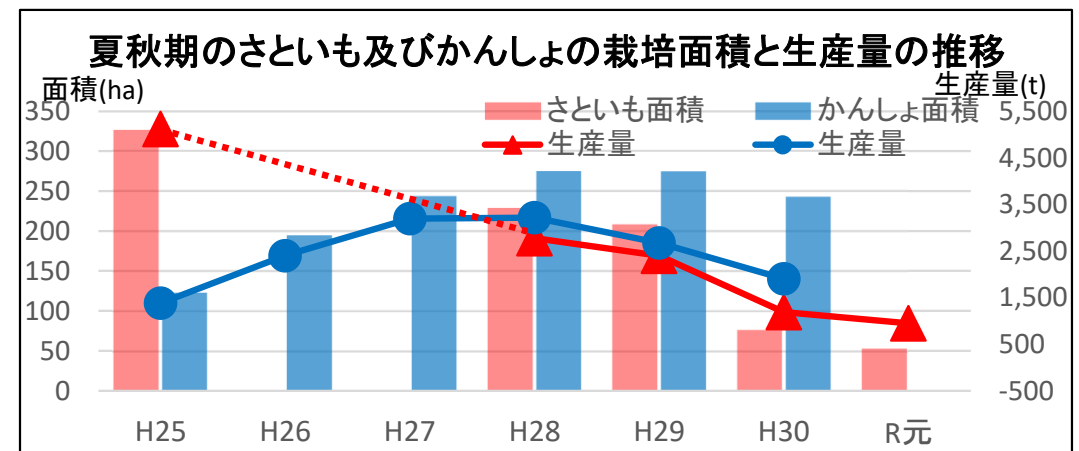
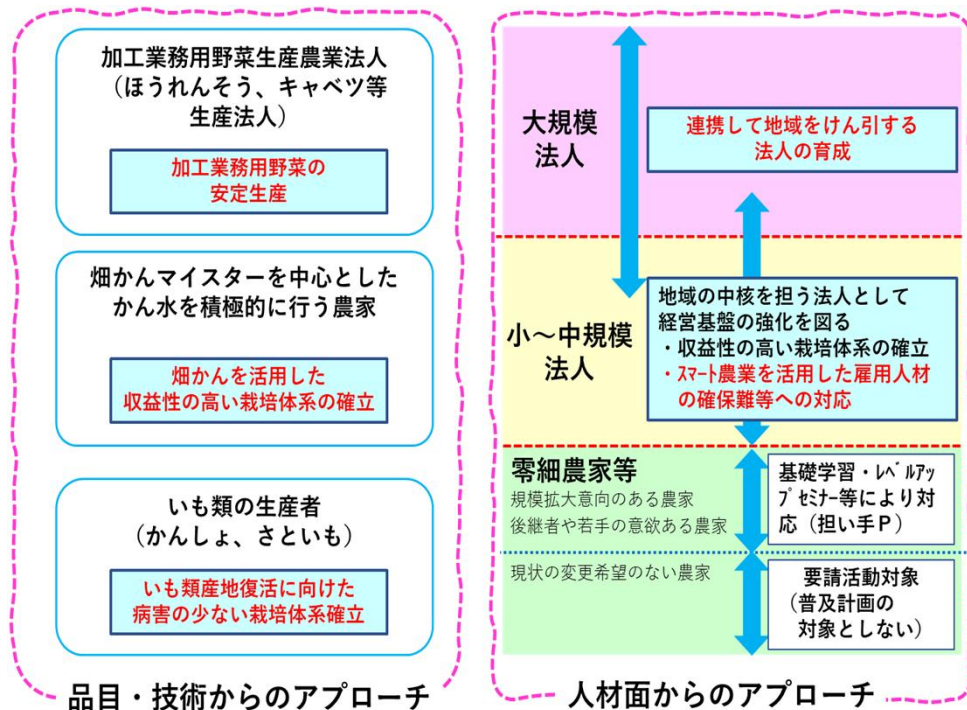
# VI-① 普及計画の概要

## 現状

- 西諸地区は県内有数の畑地帯で、加工・業務用野菜を中心とした生産体系を確立
- 夏秋期の露地野菜は、生産面積の減少に伴い、露地複合経営全体の収益性が低下
- いも類は、種苗品質の低下、病害の発生により、収量、品質が低下し収益性も低下
- 法人では、労力不足が規模拡大や経営効率化の足かせとなっている

## 課題

- 秋冬期の加工・業務用野菜の安定生産
  - ・加工・業務用ほうれんそうの安定生産、計画的出荷
- 夏秋期の収益性の高い露地野菜の安定生産
  - ・高品質な里芋産地の復活
  - ・種苗供給体制の確立による病害の少ないかんしょ栽培体系の構築
  - ・畑かんを活用した収益性の高い露地野菜の生産
- 地域をけん引する露地野菜法人の連携体制の構築
  - ・連携して地域課題に取り組む農業法人の自主組織の創出
  - ・スマート農業を活用した労働力不足への対応



夏秋期の主幹品目であるいも類の新奇病害虫の発生等により生産が不安定になっている。

# VI-① 普及計画の概要

## 目指すべき姿

- 加工・業務用ほうれんそうの安定生産と計画的出荷が図られている
- 優良種芋の安定生産により里芋の安定経営と面積拡大が図られている
- 優良種苗体制の確立により、病害リスクの低いかんしょ栽培が行われている
- 畑かんを活用した夏期の収益性の高い露地野菜が導入されている
- 農業法人の連携により、産地全体の活性化と課題解決が図られている
- スマート農業を活用して、労働力不足の解消が図られている

## R7到達目標

**管内JAの加工・業務用野菜取扱数量**

**13,912t(R元) → 15,303t(R7)**

### 連携体制

**普及センター**  
技術指導、資質向上  
の機会創設

**市町、振興局**  
施策や事業を活用  
した支援

**協議会**  
(畑作営農改善推進協  
議会、営農振興協議会)

**加工・露地  
野菜産地を  
担う経営体**

**民間**  
スマート農業等  
の技術指導協力

**J A**  
技術指導ほか総合的  
なサポート

**流通業者**  
需要情報等の提供

**試験場**  
異常気象等による  
被害情報の共有

関係者みんなで加工・露地野菜産地を担う  
経営体の成長をサポート

### 目指す姿

出荷予測の  
精度向上

加工・業務用  
ほうれんそう

安定生産

計画的出荷

年間を通じた高収益  
加工・露地野菜産地

品質・単価向上  
面積拡大

加工かんしょ

高収益作物  
の導入

さといも

病害の少ない  
栽培体制の確立  
種苗供給体制  
の確立

しょうが等  
畑かんの効果  
的／高度活用

疫病防除体系  
の確立  
優良種芋生産  
体制の確立

法人の連携による  
地域全体の課題の解決

スマート農業を活用した  
労働力不足への対応

## VI-① 普及計画の概要

## 年度別計画

(○:連携先)

普及課題		R3	R4	R5	R6	R7	市町村	JA	試験研究	民間
1	<b>秋冬期の加工・業務用野菜の安定生産</b> ・加工業務用ほうれんそうの安定生産と計画的出荷 <b>【成果目標】</b> 管内JAの加工用ほうれんそう栽培面積 62.6ha(R2) → 68.9ha(R7)						○	○	○	○
2	<b>夏秋期の収益性の高い露地野菜の安定生産</b> ・高品質なさといも産地の復活 ・種苗供給体制の確立による病害の少ないかんしょ栽培体系の構築 ・畑かんを活用した収益性の高い露地野菜の生産 <b>【成果目標】</b> さといも 45.0ha(R2) → 49.5ha(R7) かんしょ 243ha(R2) → 243ha(R7)						○	○	○	○
3	<b>地域をけん引する露地野菜法人の連携体制の構築</b> ・連携して地域課題に取り組む農業法人の自主組織の構築 ・スマート農業を活用した共通課題(労働力不足への対応) <b>【成果目標】</b> 連携して取り組んだ課題数 0(R2)→5(R7)						○	○	○	○
										18

## VI-② 主な取組と現在の状況

### 普及課題：秋冬期の加工・業務用野菜の安定生産

#### 1 重点対象集団

加工業務用ほうれんそう大型生産法人(3法人)  
JAみやざき こばやし地区本部 野尻町内ほうれんそう生産者(9戸)

#### 2 主な取組

■加工業務用ほうれんそうの計画的出荷にあたって、生育予測システムの活用を推進

■ほうれんそうのべと病及び黄化対策の研修会や資料配付

展示ほによる実証内容

- ・排水改善、予防殺菌、液肥葉面散布、栽植密度の見直し
- ・レーザーレベラーの利用による安定生産効果の検証(実施中)

#### 3 成果及び成果目標の達成状況

管内JAの加工用ほうれんそう栽培面積

62.6ha(R2) → 69.2ha(R6実績) (R7目標:68.9ha)

安定生産対策が浸透し、栽培技術の向上により目標面積を上回った。

#### 4 普及指導員だからできたこと

県下のほうれんそう生産地域において、べと病、黄化症等の発生状況の調査や情報共有を試験研究と行い、県下一斉で対策を実施することができた。



ほうれんそう栽培講習会



ほうれんそうべと病発生状況調査



## VI-② 主な取組と現在の状況

### 普及課題：夏秋期の収益性の高い露地野菜の安定生産 ①

#### 1 重点対象集団

JAみやざき こばやし地区本部 採種里芋生産部会等(7戸)

#### 2 主な取組

- さといも種芋の再生産価格の改訂とJAによる集出荷作業の受託を検討
- さといもの新規種芋生産農家(法人を含む)の掘り起こし
- 省力化を目指した分離収穫作業の機械化研修会の実施

#### 3 成果及び成果目標の達成状況

管内JAのさといも栽培面積

さといも 45.0ha(R2) → 33.1ha(R6実績) (R7目標:49.5ha)

管内JAのさといもの栽培面積は、主に高齢化が原因で減少している。  
(法人での栽培面積は増加が見られる)

#### 4 普及指導員だからできたこと

さといも種芋の供給体制検討については、関係者でのSWOT分析を利用して課題整理できた。再生産価格設定に関しては、経費を細かく積み上げた再生産価格を示し、JAやアグリシードの担当者との協議を行うことができた。

※SWOT分析とは、同プロジェクトの状況について、内的、外的要因で区別し課題整理を行う分析方法。



SWOTによる里芋の種芋課題整理



種苗供給体制の検討会

## V－② 主な取組と現在の状況

### 普及課題：夏秋期の収益性の高い露地野菜の安定生産 ②

#### 1 重点対象集団

JAみやざき かんしょ部会 小林(87戸)、えびの(13戸)

#### 2 主な取組

- 基腐病の発生状況調査を実施
- 基腐病の防除意識の向上を目指した研修会の開催  
(JA部会員、法人、その他の生産者を参集)
- 種苗供給体制の検討会の開催と新規苗生産者の掘り起こし



かんしょ生産技術向上研修会

#### 3 成果及び成果目標の達成状況

管内のかんしょ栽培面積

243.0ha(R2) → 293.0ha(R6実績) (R7目標:243.0ha)

基腐病の少ない産地を維持し、栽培面積の目標を達成した。



サツマイモ基腐病現地調査

#### 4 普及指導員だからできたこと

他地域の基腐病に関する事例、対策を管内の関係者、法人を含む生産者に迅速に伝えることによって、基腐病の発生の少ない産地作りに貢献することができた。また、法人も含めた苗生産状況を詳細にヒアリングし、苗生産体制の協議を行うことができた。

## VI-② 主な取組と現在の状況

### 夏秋期の収益性の高い露地野菜の安定生産 ③

#### 1 重点対象集団

畑かんマイスター(8戸)

#### 2 主な取組

■さといも疫病の防除とかん水を両立した技術、しょうが、にんじん、飼料作等の畑かん水利用の展示ほ設置

■畑かんマイスター研修会の実施

■「水サポ隊」による畑かん水営農相談窓口の開設

※水サポ隊は、関係機関による畑かん協力組織

#### 3 成果指標の達成状況

畑かん水活用技術に取り組む農家数

0件(R2) → 6件(R6実績) (R7目標:8件)

畑かんマイスター等への畑かん水の利用への理解を深めることにより目標を達成することが出来た。

#### 4 普及指導員だからできたこと

畑かん水の利用を干ばつ時だけにとどめずに、積極的な営農手法としてとらえ、特に収益性の高いさといも、しょうが等の定植時の発育促進、安定多収量への利用を普及した。また、地域の核となる畜産経営に対し、増産を目的とした飼料作への利用を普及した。



里芋のかん水展示ほの設置



畑かんマイスターへの水利用研修会



## V-② 主な取組と現在の状況

### 地域をけん引する露地野菜法人の連携体制の構築

#### 1 重点対象集団

露地野菜を主業とする農業法人(28法人)

#### 2 主な取組

- 法人アンケートの結果をもとにした共通課題の設定、意見交換の実施
  - ・ 共通課題: 労働力不足、人材育成、農地集約、温暖化対策、補助事業、スマート農業
  - ・ 西諸県地区西部と東部に分けた農地集約研修会を実施し、全8箇所の農地集約を検討

#### 3 成果及び成果目標の達成状況

連携して取り組んだ課題数 0(R2) → 6(R6実績) (R7目標:5)  
普及活動のなかで共通課題を聴き取り、意見交換を実施した。

#### 4 普及指導員だからできたこと

日頃の法人の巡回(病虫害診断、営農相談等)から抽出した、法人の抱える課題について意見交換が活発に行われた。



農地集約の研修会



露地野菜法人の意見交換会

## Ⅵー③ プロジェクト全体の到達目標の達成状況

普及課題： 秋冬期の加工・業務用野菜の安定生産

普及課題： 夏秋期の収益性の高い露地野菜の安定生産

普及課題： 地域をけん引する露地野菜法人の連携体制の強化

### プロジェクト全体の到達目標の達成状況

#### ○ 管内JAの加工・業務用野菜取り扱い数量(t)

R2(基準)13,912t → R6(実績)12,862t(R7目標:15,303t)  
※R5(実績)14,488t

## VI-④ 今後の課題と対応方向

### (今後の課題)

- 畑地かんがい整備地区に対する水の営農利用の推進
- 大規模農業法人の連携の強化を目指した共通課題の設定、意見交換の実施
- 加工・業務用野菜等の安定生産化

### (対応の方向)

- 畑地かんがい地区への営農技術の普及やサポート(水サポ隊の活動)
- 法人交流会を核とした共通課題の解決、スマート農業技術の実証、導入への支援
- 加工用野菜の安定生産技術に関する実証、検討会、研修会の開催
- 芋類(かんしょ、さといも等)の種芋、苗生産体制の構築



農業土木職員との散水器具導入支援



レーザーレベラー導入へ



かんしょのドローン農薬散布